

政 策 10

～国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

平和を大切にし、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる“ふるさと松戸”を実現します。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度	—	—	—	—	19.2%	20%
	20.5%	18.0%	18.0%	21.0%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

ほぼ現状維持をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
文化・芸術に親しむ市民の割合	—	50.0%	50.0%	—	49.4%	50%
	46.8%	44.2%	47.0%	45.1%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

ほぼ現状維持をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
外国籍市民と交流している人の割合	—	7.0%	4.5%	—	3.7%	5%
	3.6%	3.0%	3.2%	3.7%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

最高実績値に戻すため、年0.1ポイント程度の増加をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
外国人市民で暮らしに満足している割合	—	60.0%	83.0%	—	83%	85%
	56.0%	82.7%	82.7% (H19)	82.5% (H23)		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

21年度に対し2ポイント程度の増加をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
世界平和都市宣言の認知度	—	49.0%	51.0%	53.0%	54%	60%
	53.9%	54.7%	52.2%	61.3% (H23)		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

第3次実施計画において、平成20年度は49.0%、平成21年度は50.0%、22年度は51.0%、平成24年度は53.0%を目標として設定した。上限を60%と設定し、今後も引き続き、毎年1ポイントの増加をめざす。

政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

1.固有の文化・伝統に触れることができるようにします

1. 現況と課題

今から3万年前に松戸市域に人々が生活をはじめてから現在に至るまで、様々な人々の歴史が展開されてきました。幸田貝塚をはじめとする縄文時代の遺跡、東漸寺、本土寺、萬満寺といった古刹・名刹、江戸時代に宿場町として栄えた旧松戸宿や旧小金宿、旧徳川家松戸戸定邸などが本市の歴史や伝統を象徴的にあらわしています。文化財の指定状況は、国指定6件、千葉県指定6件、市指定38件になっています。

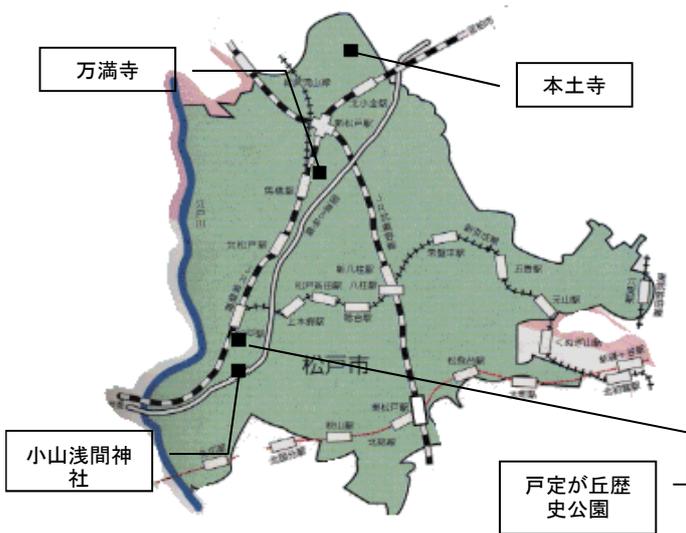
地域の歴史や文化を知ることは、自分の住んでいるまちを大切に思うことにつながります。文化財標識柱の設置などにより、市民が松戸の歴史や文化・伝統に関心をもち、また、後世に引き継げるように取り組んでいます。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 団塊世代の地域回帰により市内の歴史的な名所を探访するニーズが増加します(ニーズの増)
- ② 固有の文化・伝統に関わっている市民が、これまでよりも後世に引き継ぐための方策を考え、実行しなければならないという必要性にせまられています(ニーズの増)

●指定文化財(国・県)

国	1	木造金剛力士立像	萬満寺
	2	大学三郎御書(日蓮筆)	本土寺
	3	諸人御返事(日蓮筆)	
	4	梵鐘「建治四年在銘」	
	5	千葉県幸田貝塚出土品	市立博物館
	6	旧徳川家松戸戸定邸	戸定が丘歴史公園
県	1	浅間神社の極相林	小山浅間神社
	2	松戸の万作踊り	万作踊り松戸保存会
	3	富城殿御返事(日蓮筆)	本土寺
	4	本土寺過去帳	
	5	銅透彫華籠	
	6	旧徳川昭武松戸別邸(戸定邸)庭園	戸定が丘歴史公園



●木造金剛力士立像(萬満寺)



●松戸の万作踊り



●千葉県幸田貝塚出土品



出典 松戸市ホームページ

2. 施策の展開方向

郷土の歴史や伝統・文化を市民に知ってもらうため、文化財の基礎調査を進め、標識柱や案内板を整備します。

市立博物館については、「見て・触れて・身体で感じる」とする基本コンセプトは守りつつ、資料の展示方法の改善や展示替えを行い、リピーターにも新しい発見ができるよう創意工夫を凝らしていきます。

戸定邸及び戸定歴史館については、隣接する千葉大学松戸キャンパスの緑、イタリア式庭園、フランス式庭園などとの連携も視野に入れつつ、戸定が丘緑地の文化的資産を市民と協働して活用し、若手芸術家などとの連携による芸術の創造なども図りながら、より複合的に魅力を高めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

歴史文化の保存活用を推進していくためには、地域に愛着や誇りを認識する機会を増やしていく必要があります。市民、地域で活動する団体、企業と連携し、文化的価値を次世代へ伝えていくこと、周辺環境に配慮しながら、地域のアイデンティティーの活性化へつなげていくことが課題です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 博物館を基点として郷土の歴史・文化、伝統の保持、伝承に努めています（強み）
- ② 伝統芸能を承継する人材の発掘・育成が困難です（弱み）

●博物館展示内容(平成23年度)

展示事業名	内容	人数
常設展示	松戸3万年の歴史	15,637
野外展示	縄文時代竪穴住居	18,822
映像展示	講堂での歴史、考古、美術等の映像ソフト・ビデオコーナー	4,598
プレイルーム	編布・機織体験	7,252
企画展	実験展示「あるくー身体の記憶」	3,783
資料展	写真で見る昭和の松戸	4,487
美術展	松戸の美術100年史	1,983
学習資料展	昔のくらし探検	7,194

出典 平成23年度松戸市の社会教育

●戸定邸



明治17年(1884年)建設 面積 725平方メートル
木造平屋一部二階建て

出典 松戸市ホームページ

●博物館体験教室(平成23年度)

事業名	内容
こども体験教室「土鈴をつくろう」	土鈴づくり体験
小学生学芸員「米づくり・展示づくり」	田植えから収穫までの米作りの一連の作業体験と展示製作及び発表
こども自然観察会「見よう！触れよう！松戸の自然 21世紀の森と広場のトンボたち」	21世紀の森と広場に生息するトンボの生態を観察する教室
昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」	風呂敷の包み方体験
昔のくらし体験教室「桶を担いでみよう」	天秤棒を使った桶の担ぎ方体験教室
昔のくらし体験教室「自分で作る糸と布」	小学4～6年生を対象に、糸作りから布作りまでの体験教室
こども体験教室「勾玉づくり」	軟らかい石を使って勾玉を作る
こども体験教室「骨ペンダントづくり」	牛骨を使ってペンダントを作る
体験教室「自分で作る糸と布」	一般を対象にわたから糸車を使って糸をつむぎ、高機で布を織る体験
体験教室「縄文土器を作る」	縄文土器の製作体験を通して歴史・文化に対する見方を深める
「裂き織をしてみませんか」	布を裂き糸を作成し、機織り機で織って、裂き織り布までの製作体験
プレイルーム体験教室「布草履を作ってみませんか」	布草履作りの体験教室

出典 平成23年度松戸市の社会教育

政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

2.文化・芸術活動を振興します

1. 現況と課題

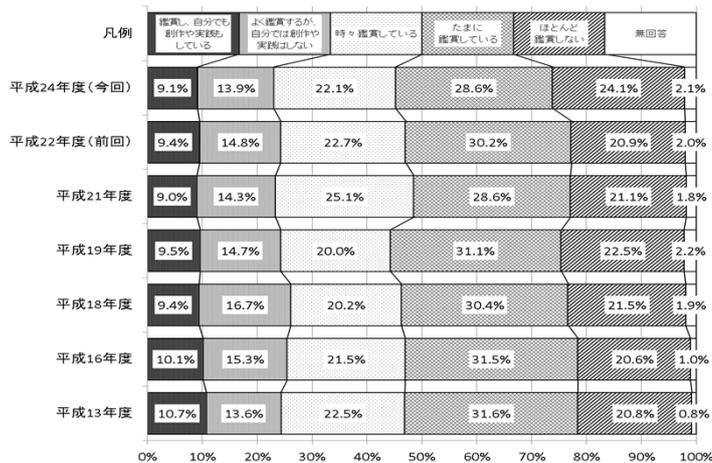
本市では、市民の文化芸術活動やスポーツ活動などを支援し、豊かな人づくり、まちづくりを進めています。

市民意識調査によれば、「文化・芸術に親しむ市民の割合」は、平成13年度46.8%でしたが、平成24年度45.1%となっています。なお、本市の文化施設は、近隣他市と比較して数多くありますが、昭和39年に建設された市民会館をはじめ老朽化した施設もあり早急な対応が求められています。

【特筆すべきニーズの変化】

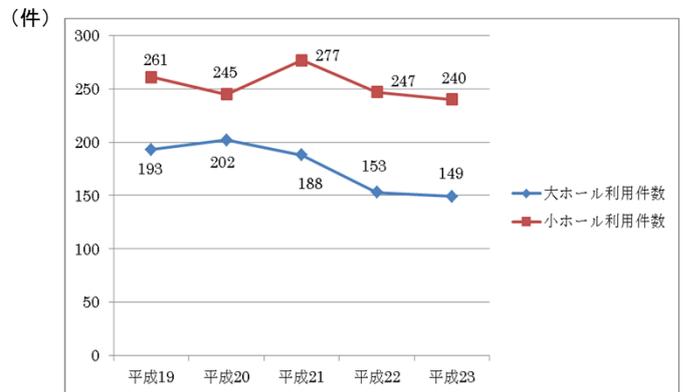
- ① 豊かな人生を求める市民が、文化・芸術を楽しむきっかけや一緒に楽しめる仲間を求めるニーズが高まっています（ニーズの増）
- ② 文化・芸術活動をしている人は、自らの活動を発表し、多くの人に見てもらう場、機会を求めるニーズが高まっています（ニーズの増）
- ③ 文化・芸術の鑑賞の場は、市内でなくても、機会も豊富な都心に求めることもあります

●文化・芸術に親しむ市民の割合



出典 松戸市市民意識調査（平成24年度）

●文化会館利用件数の推移



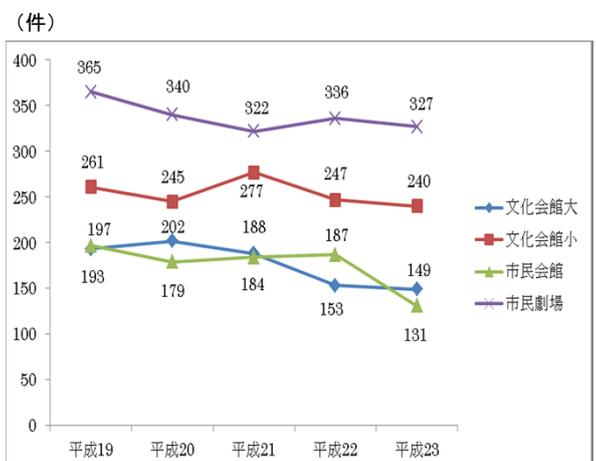
出典 松戸市の社会教育

●文化施設の他市との比較

市名	名称	客席数	計
松戸市	文化会館	大ホール	1,955
		小ホール	516
	市民会館	ホール	1,212
	市民劇場	ホール	332
船橋市	市民文化ホール		1,110
	市民文化創造館	きららHall	264
市川市	文化会館	大ホール	1,945
		小ホール	448
	行徳文化ホール		647
柏市	市民会館		904
	市民文化会館	大ホール	1,632
		小ホール	300
アミュゼ柏		400	

出典 各市ホームページ

●市内会館(ホール)利用件数比較



出典 松戸市の社会教育

2. 施策の展開方向

文化芸術を振興するため、松戸ゆかりの芸術家の演奏会を開催するとともに、美術作品の展示を行います。また、市内の文化団体の活動を支援するとともに、協力して展覧会の開催などを行います。舞台芸術については、公益財団法人松戸市文化振興財団を支援することで、国内外の優れた舞台芸術が身近で鑑賞できるようにします。

今後、文化施設の老朽化に伴い、適切な維持管理により延命化を図るとともに、市民会館から戸定歴史館、千葉大学園芸学部までの地域については、より文化的資産の価値を高めるため、一体的な検討を進めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

市民ニーズに合った質の高い文化芸術を提供していくためには、施設の老朽化への早急な対応が必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 東京に近く、いろいろな芸術を鑑賞する場には事欠きません（強み）
- ② 市民劇場、文化会館などの発表の場が多くあります（強み）

●鑑賞事業（平成23年度実施）

部門	件数	入場者数	内容
クラシック	5	3,447	シエナ・ウインド・オーケストラ、 外山啓介ピアノリサイタル
伝統芸能	2	1,803	桂 歌丸特選落語会
ポピュラー・歌謡曲	3	3,812	今井美樹コンサートツアー、 T・M・Revolution、 マンハッタン・ジャズ・クインテッド
演劇・ミュージカル	1	704	ミュージカル山椒大夫
その他	2	4,396	受賞記念発表会 おかあさんといっしょ
計	13	14,162	

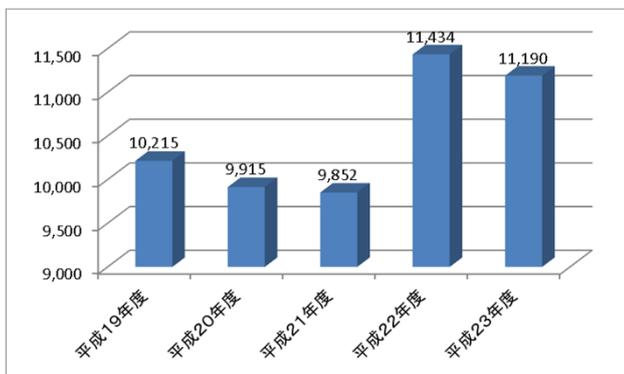
出典 平成23年度(公財)松戸市文化振興財団事業報告書

●松戸市民コンサート

第19回	ベートーヴェン「第九」
(H19)	入場者数 1,650人
第20回	マーラー「交響曲第2番 復活」
(H20)	入場者数 1,674人
第21回	ロッシニ「スタバート・マーテル」
(H21)	入場者数 1,537人
第22回	ベートーヴェン「交響曲第9番 合唱村」
(H22)	入場者数 1,950人
第23回	カルミナブラーナ演奏会
(H23)	入場者数 1,629人

出典 松戸市の社会教育

●プラネタリウム(市民会館)利用実績



出典 市民会館資料

●文化会館(森のホール21)



出典 松戸の教育

●文化ホール



出典 社会教育課資料



政策10

国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

3.国際化の推進と平和意識を高めます

1. 現況と課題

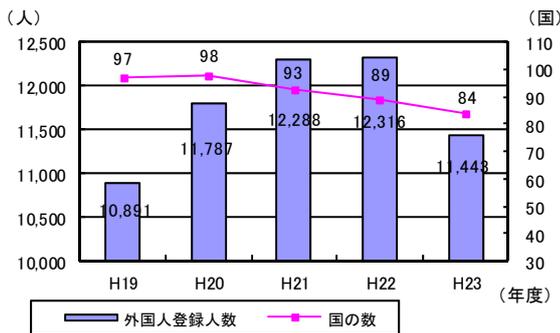
国際化の進展に伴い、本市においても外国人市民の数は年々増加し、平成24年7月6日現在、88カ国11,288人が居住しており、市民約43人に1人は外国人であるという状況です。しかし、市民意識調査によれば、「外国籍市民と交流している人の割合」は、平成21年度に3.3%であったものが、24年度には3.7%と微増しているものの、交流はわずかです。民族文化や生活習慣の違い、言葉の問題等による誤解や摩擦等が生じることもあり、同じ地域の住民として、相互理解を図り、協力して住みよい地域社会をつくっていくことが必要です。

また、国家間の紛争や、テロの台頭による緊張の高まりは、様々な形で世界的な平和が脅かされている中で、戦争を体験した人の数も少なくなり、平和に関する意識も風化の様子が見受けられてきております。今後も、平和に対する認識を深め、その大切さ、尊さを後世の人に語り伝えていくことが必要です。

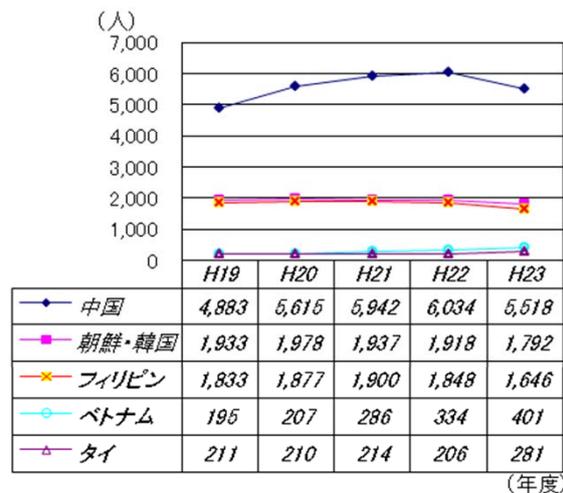
【特筆すべきニーズの変化】

- ① 外国人市民が、日常生活を暮らしやすくするための支援を求めています（ニーズの増）
- ② 戦争体験者が減少し、多くの人が戦争体験がない世代へ平和意識を浸透させることを求めています（ニーズの増）

●外国人登録人数及び国籍数

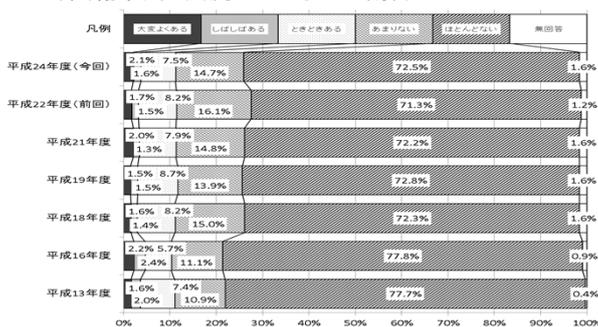


●外国人登録上位5カ国



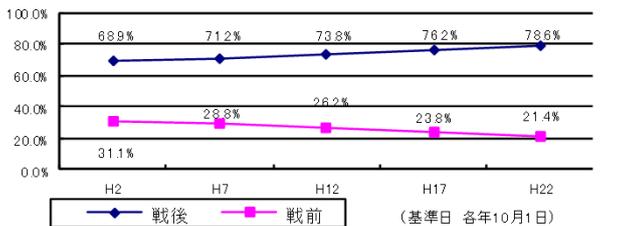
出典 市民課資料をもとに作成

●外国籍市民と交流している人の割合



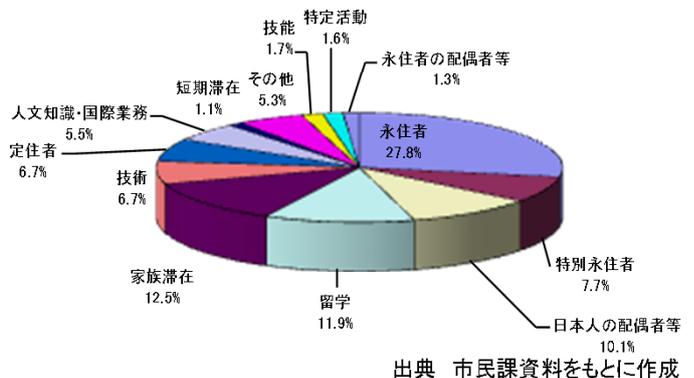
出典 松戸市市民意識調査(平成24年度)

●戦前・戦後生まれ人口(構成比)の推移



出典 国勢調査をもとに作成

●外国人登録者の在留資格(平成23年度)



出典 市民課資料をもとに作成

2. 施策の展開方向

今後も増加が予想される外国人市民が、松戸市民として、安全で快適な生活を送れるようにします。そのため、「外国人市民懇話会」をはじめ、在住の外国人の声を聴く機会を増やすとともに、外国人市民が公平なサービスを受けられるように情報の提供及びその手段の更なる充実に努めます。また、多文化共生意識と相互理解の促進を図るため、外国人市民と日本人市民の交流の場を増やします。

さらに、昭和46年より続いているオーストラリア・ホワイトホース市との姉妹都市交流事業を推進するとともに、カンボジアへの支援などのように、本市でできる範囲での海外支援を行い、それをきっかけとした文化や教育、経済など様々な分野での国際交流を図ります。

また、昭和60年にあらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和を念願し行った「世界平和都市宣言」の理念に基づき、平和の大切さを訴え、意識の高揚を図っていくための平和事業を充実し、戦争の体験を風化させないための啓発や継承などの取り組みを推進していきます。

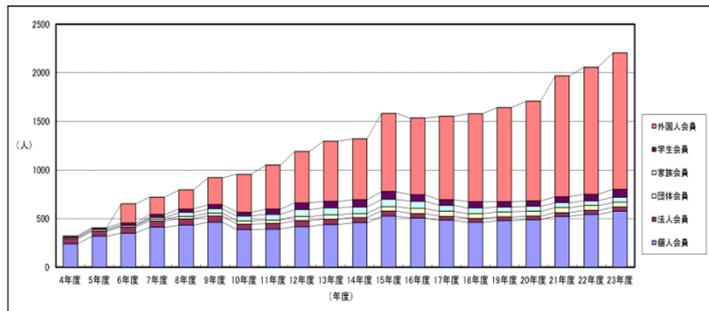
3. 施策を推進していく上での課題

外国人市民と日本人市民との地域交流が進む中では、民族・文化や生活習慣の違い、言葉の問題等による誤解や摩擦が生じることもあるため、互いをより理解できるような機会や情報の提供が必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

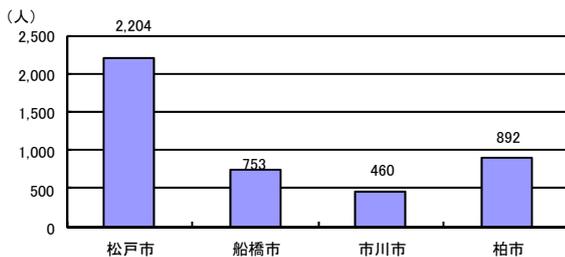
- 国際交流協会を拠点として外国人市民の会員を組織化しています（強み）

●国際交流協会会員数



出典 国際交流担当室資料をもとに作成

●各市の国際交流協会会員数（平成23年度）



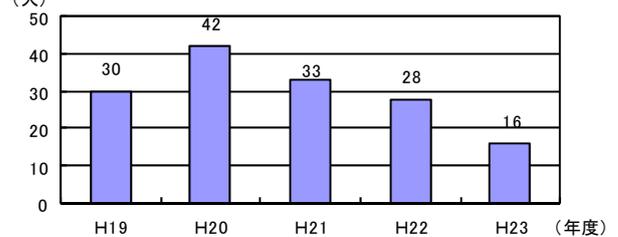
出典 国際交流担当室資料をもとに作成

●平和啓発事業（平成23年度）

事業名（講座タイトル）	件数及び参加者数等
平和の集い「地球のステージ4」	316名
平和パネル・ポスター展	ポスター 95枚 俳句等 67作品
戦時中の食事体験講座	54名
平和短歌・俳句・川柳・絵ハガキ募集	67作品
戦争体験講話	食事体験講座時実施
非核宣言自治体協議会参加	職員1名参加
折り鶴送呈	5,000羽 長崎市へ送呈
平和語り部	7回開催

出典 総務課資料

●外国人相談件数



出典 市民相談課資料をもとに作成

●国際交流協会事業（平成23年度）

事業名	内容	参加人数
(1) 第16回松戸市国際文化祭	姉妹都市提携40周年記念事業として例年の国際文化祭の内容に加えて、姉妹都市を紹介	入場者 1,318名
(2) 第22回国際交流パーティー	楽しいアトラクションを交えての交流パーティー	268名
(3) 第31回高校生英語スピーチコンテスト	莫大災害による電力不足の影響で中止	—
(4) 第30回青少年姉妹都市派遣	中学生英語スピーチコンテスト入賞者を対象に	派遣者 9名
(5) 第20回外国人日本語スピーチコンテスト	日本語に励む外国人の学習成果の発表機会	入場者 300名
(6) 第33・34回世界の料理教室	料理を通じての異文化交流	2回延べ 33名
(7) 日本語学習支援	初級日本語教室(9教室) 対象:外国人 運営:日本語ボランティア会 日本語教育講演会	ボランティア講師 240名 年間受講者 延 437名 45名
(8) 語学講座	初級外国語講座 英語 韓国語	2講座延べ 550名
(9) 第25回ワンデイ・ドットアップ	日韓リハスツアー	23名
(10) まつど国際文化大使	団体への大使派遣 第14期委嘱式・懇談会	派遣者 延 13名 委嘱式 68名
(11) ホームステイ・ホームビジット	外国人のホームステイ・ホームビジット	実施なし
(12) 姉妹都市交流	ホワイトホース市との交流、受入れ及び派遣補助 (ホワイカワ市防犯・クワナン高校来松補助)	ホワイカワ11名
(13) 海外からの受け入れ	経済・教育・スポーツ等の交流	実施なし
(14) 国際交流団体支援	後援及び補助(補助金4団体)(後援6団体)	延年
(15) 第40・41回世界の文化サロン	各国の文化紹介等(オーストラリア、中国)	2サロン延べ 51名
(16) 第38回松戸まつり協力	松戸まつりへの出店	松戸まつりへの出店
(17) 国際理解講座	英語による世界めぐり(英語による各部の紹介等) オーストラリア、ポランド、ネパール	延べ 59名
(18) 会報「和と輪」	姉妹都市40周年記念事業、戸定閣コンサート	参加者 52名 2,500部
(19) 会報「みいあすてーしょん」	日本語・英語・中国語・ハンガリー スペイン語・ポルトガル語版	各月発行・全委員(各1,250部)
(20) ホームページ作成	日本語・英語・中国語版	運営

●世界平和都市宣言

出典 国際交流担当室資料

我が国は、世界で唯一の被爆国である。
 何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。
 しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である 平和精神のつとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

